

1 研究主題

本は友達
～図書資料とタブレットの利点を生かして～

2 はじめに

本研究会では、これまで、図書室を「読書センター」としての機能だけではなく、「学習センター」や「情報センター」としても活用していくために、授業の中で図書室や図書をどのように利用していくかに焦点を当てた研究を進めてきた。様々な情報メディアの発達・普及により、教育現場においてもタブレット等 I C T 機器の導入が進み、さらなる読書離れが指摘されている。その状況下において、図書資料とタブレットそれぞれの利点を生かすことによって、本をより身近に感じることができるのではないかと考えた。児童生徒が本に親しみ、自ら学ぶ力を身に付けるための実践を中心に据え、研究に取り組んだ。

3 研究経過

全体会と学年別部会の2部構成で会をもち、研究を進めた。学年別の部会は基本的に部員の担当学年で分け、小学校で3つの部会、中学校で1つの部会の合計4部会を設定した。

- 5月 研究組織・研究テーマ・研究計画・実践報告時期や内容の決定
ブックリストの改訂について（小牧市中央図書館との連携）
- 6月 ブックリスト選書の検討
- 7月 ブックリスト選書の確定
- 9月 村瀬真奈美先生による研修会
- 10月 授業実践報告会 ブックリスト内容紹介文の検討
- 11月 授業実践報告会 ブックリストの完成
- 1月 実践のまとめ（小委員会）
- 2月 今年度の研究のまとめ

4 研究の概要

（1）全体会

図書室の運営など、各校共通の話題を取り上げて情報交換を行うとともに、市立図書館と連携し、ブックリストの改訂に向けて準備を進めた。また、教育研究愛知県集会での発表に向けて、実践や研究のまとめを行った。9月

には、村瀬真奈美先生に読み聞かせや選書についての講演をしていただき、子どもたちと本をつなぐきっかけづくりの方法や、本の魅力を伝える手段を学んだ。【写真①】

これらの貴重な経験を、各校における今後の読書活動の推進に生かしていけるようにしたい。



【写真① 研修会の様子】

(2) 学年別部会

図書資料とICT機器を利用した実践報告を行った。授業の中での活用法や図書委員会の取組について新しい気づきがあり、今後の実践の幅や可能性が広がった。また、ブックリストの改訂に向けて選書作業や内容紹介文の検討などに取り組んだ。

(3) 小学校：図書委員会の活動実践

① 実践のねらい

- ・ 読書週間中、図書室に一度に多くの人が集まることを避けながらも、本に親しみをもってもらいたい。
- ・ より多くの児童に、1冊でも多くの本を知ってもらいたい。

② 実践の内容

ア 図書委員会の活動の流れ（3時間完了）

時	活 動 内 容
第1時	おすすめの本の紹介を、コロナ禍でどのように行うか話し合う。 →昨年までの紙媒体ではなく、タブレットを使って行うことに決定。
第2時	読書週間に間に合うように、おすすめの本を紹介する資料を作成する。
第3時	読書週間の反省会を行う。

イ 図書室の関わり

<情報を集める>

- ・ 委員会の時間を利用し、図書室でおすすめの本を探した。対象学年を低・中・高学年の3グループに分け、その学年にあった内容の本を探したり、図書委員の児童が個人的に好きな本を選んだりした。

<学校図書館司書との連携>

- ・ 本を探す際に、学校図書館司書に協力をしていただいた。また、紹介文を作成する際も、アドバイスをもらい、より本の魅力が伝わるような文章を書くことができた。

ウ ICT機器の活用

＜資料を作成する＞

- ・ 学習支援アプリ（ロイロノート）を活用し、おすすめの本の紹介資料を作成した。本の表紙の写真を撮って貼り付け、紹介文を入力した。

【写真②】

- ・ まだタブレットに慣れていない低・中学年への配慮として、できあがった資料を印刷したものを、図書室と各階に掲示する工夫を行った。

【写真③】また、給食の時間の放送でも、おすすめ本の紹介をし、活動の宣伝を行った。各クラスで、教員が紹介資料の映像を見せながら、放送委員が紹介文を読み上げた。



【写真② 紹介資料を読む児童】



【写真③ 紹介資料の掲示】

＜ICT支援員との連携＞

- ・ タブレット操作をする際、ICT支援員もそばで見守ってくださり、大変心強かった。

③ 成果と課題

- ・ ロイロノートは、紹介したいイメージにあわせて本の写真を撮ったり、文章量にあわせて紙面上の構成を工夫したり、スペースを生かして絵を描いたりすることができるため、図書委員が意欲的に取り組む姿がみられた。委員 15 名全員が本の紹介をすることができ、中には 7 冊も作成した児童もいた。秋に行った今回の取組は、大好評であった。図書室に行かなくてもいつでも紹介文を閲覧できるようになったことで、図書室に集まる人数を分散できた。図書委員の児童からは、前期の頃からこの活動を行っていたら、もっと本に親しみをもってもらえたのではないかという意見が出た。そこで、今後は学校全体に広げていき、より読書に対する意欲を高めていきたい。

（４） 中学校：２年国語の授業実践

① 実践のねらい

- ・ コロナ禍で外出が制限される生徒たちに旅行プランを考えさせることで、広い世界に関心をもたせ、楽しく活動する機会としたい。
- ・ 効果的な資料とは何かを考えさせることで、生徒の発信力を高めたい。

② 実践の内容

- ア 単元名 魅力的な提案をしよう
ー資料を示してプレゼンテーションをするー

イ 授業の流れ（５時間完了）

時	活 動 内 容
第１時	学習目標と活動テーマを知る。 テーマ：「空想旅行企画！こんな旅はいかがでしょう」 グループを作り、構想を立てる。
第２・３時	情報を集め、旅行企画の立案をする。 資料などを工夫して、効果的な構成を考える。 プレゼンテーションの資料を作る。
第４時	旅行企画のプレゼンテーションと最も魅力的な旅行プランへの投票をする。
第５時	学習のまとめ

ウ 図書室の関わり

<情報を集める>

- ・ 旅行先は時代や場所などを自由としたため、決めることが難しい生徒もいた。その際の手だてとして、活動場所に図書室も設定した。様々な本を見ることで、自分の興味関心を絞ることができ、旅行先を決める大きな手助けとなった。
- ・ 外国籍生徒が自国の旅行プランを立てようとしていた際に、まずは本で観光地や食べ物、文化などを調べていた。その中から選んだ情報について、タブレットで詳細を調べたり、翻訳機能を使って日本語に変えたりしていた。

<学校図書館司書との連携>

- ・ 「ブラジルについて書かれた本がほしい」「宇宙に関する本はどこか」「天気や雲に関するおすすめの本はあるか」など、自分たちが必要としている本を学校図書館司書と一緒に探している生徒がいた。事前に学校図書館司書に依頼していなかったが、生徒の要望に寄り添ってサポートしてもらえた。自分たちでは手に取らない本に出会うことができたのは司書の方のおかげであった。

エ ICT機器の活用

<情報を集める>

- ・ 本だけでは足りない情報（写真や宿泊施設の詳細など）についてインターネットを使って収集した。どのようなサイトの情報を利用するとよいかは、事前学習をした（「メディアを比べよう」）。出典を意識させるために、情報を得たサイトのURLや配信元などを資料に記載させた。

＜発表資料をつくる＞

- ・ 学習支援アプリ（ロイロノート）を利用して、発表資料を作成させた。【資料①】

③ 成果と課題

- ・ テーマを絞ったり概要をつかんだりする段階で本を使い、詳細な情報やピンポイントで必要な情報を得る段階ではインターネットを使う生徒が多かった。メディアを必要に応じて使い分けている姿が見られた。
- ・ 生徒との対話から適切な本をいくつも紹介してくださる学校図書館司書の存在は大きい。



【資料① プレゼンテーション資料】

(3) ブックリストの改訂

① 実践のねらい

- ・ 学校と市立図書館が連携し、児童生徒の発達段階および興味に合致する本を選書し、様々な分野の本に親しませたい。

※ 小学校低学年（40冊）・中学年（30冊）・高学年（30冊）・中学校（33冊）のブックリストを作成している。

② 実践の内容

ア ブックリスト改訂の流れ

4月 市立図書館職員に出版状況の調査を依頼

- ・ 品切れや絶版の本をリスト化し、改訂により何冊程度本の変更をする必要があるか見通しをもつ。

5～6月 選書作業

- ・ 小学校低学年・中学年・高学年・中学校の4部会に分かれて選書の話し合いを行う。【写真④】
- ・ 各自、本を持ち寄り、感想やおすすめするポイントを伝え合いながら選書を進める。



【写真④ 選書の様子】

7月 掲載図書の決定

- ・ 本の内容を確かめながら、ブックリストに入れる本を吟味し、決定する。

8～9月 内容紹介文の作成

- ・ 掲載図書の内容紹介文を作成する。

10月 内容紹介文の検討

- ・ 各部会に分かれて内容紹介文を検討し、最終決定する。

10月以降 市立図書館にブックリストの改訂版を報告

- ・ 市立図書館にブックリストをデータで提出する。
- ・ 市立図書館では、学校のタブレットや自宅のパソコン等でブックリストの検索や予約ができるように掲載準備を行う。
- ・ 各小中学校で、職員・児童生徒に活用方法を周知徹底する。

次年度4月 新ブックリスト運用開始

イ 市立図書館との関わり

＜市立図書館との連携＞

- ・ ブックリストの改訂にあたって、出版状況の確認や配本の準備、市立図書館のホームページ記載の整備など、教育研究会と市立図書館が相互に関わり合って準備を進めた。

＜学校図書館司書との連携＞

- ・ 各部会に分かれて図書担当者が本を探す際に、どのような本を選ぶと良いか悩むことがあった。そのため、日頃から多くの本に接し、選書に精通している学校図書館司書にアドバイスを求めたところ、最近出版された本から名作のような本まで、新旧様々な分野から選書することができた。

ウ ICT機器の活用

＜ブックリストをインターネット上で掲載＞

- ・ ブックリストは市立図書館のホームページ上に掲載され、学校のタブレットや自宅のパソコン等から、検索や予約を行うことができる。

＜読書記録を蓄積する＞

- ・ 市立図書館ホームページ内の個人ページにアクセスすることで、児童生徒は本を読んだ感想等を読書記録として蓄積することができる。

③ 成果と課題

- ・ ブックリストの改訂は、本研究会の活動として大変有意義なものとなった。各校の図書担当者は絶えず替わっていくため、前回の改訂には参加していない担当者も多くいる。そのため、どのように改訂を進めていくと良いか不安もあったが、前回改訂時の担当者からブックリスト作成の意図や改訂方法を聞くことでスムーズに改訂を進めることができた。「詩や言葉に関する本」「戦争に関する本」など様々な分野の本を入れ

たいというブックリスト作成当初からの思いを引き継ぎながら選書をすることもできた。また、SDGsやLGBTQなど、現代社会の課題となるような内容の本を選書することで、子どもたちに本を通して教員からの思いを伝えたいという願いを込めることができた。

- ・ 学校の図書室にも市立図書館にもブックリスト上の掲載本が配本されており、子どもたちがリストにある本を手に取りやすい環境が整えられている。学校でも家庭でもブックリストは身近なものになっている。
- ・ 昨年度までは、ブックリストに掲載した「読書ノート」が市内の小中学生の希望者に配布され、規定の冊数を読むことができた児童には「読書マスター」の認定証がもらえていた。子どもたちは「読書マスターになりたい！」と意気込み、意欲的にブックリストにある本を読んでいた。ただ、読書マスターを得る子どもが小学校低学年中心であったり、自分の読みたい本を優先するためなかなか読書ノートの望ましい活用が見られなかったりする現状があった。そのため今年度からは「読書ノート」の配布を廃止し、市立図書館のホームページ内において、「読書ノート」を閲覧したり、個人のページを設定して読書記録を残したりできるように変更された。そこには、感想も記録することができるようになっていく。しかし、まだ、運用が始まったばかりで子どもたちが活用方法を十分に理解していない。今後は、活用に向けての支援を、本研究会と市立図書館、学校図書館司書が連携して取り組んでいく必要があると考える。

5 今後の課題

図書資料とICT機器にはそれぞれの良さがあり、双方を併用しながら学習することで、学びがさらに深まり、学習効果が上がることが期待される。より高い効果を得るためにも、図書資料とICT機器を使用する際のそれぞれの利点を、教員も児童生徒も理解する必要がある。本研究会では、今後も、使用する目的を明確にしたうえで、授業や活動の内容によってうまく使い分けをしながら、より効果的な方法を探っていききたい。

今後もますますタブレット等のICT機器の活用が広がることが予想されるが、図書室の利用を大切にし、図書資料のもつ魅力を学校中で再認識できるように、本研究会において日々、研究を進めていきたい。さらに、市立図書館や学校図書館司書とも連携を図りながら、目の前の児童生徒の実態に応じた図書資料やICT機器の利用について考えていきたい。